

海と緑楽しみ歩く

内灘ロマンチックウォーク

第4回恋人の聖地・着点とする5キロと12キロの内灘ロマンチックウォークの2コースで約500人が参加して行われ、望を楽しみ、心地よい汗を流した。

内灘、北陸放送後援)は、町内外からの参加者は日本海や緑が鮮やかに、金沢医科大学の医師や看護師も一緒に歩き、参加者は健康について学びながら歩を進めた。12キロのまるごとコース、5キロのアカシアコースとも林帯遊歩道を通り、咲き始めたニセアカシアの花も眺めた。

町役場では同大による「ふれあい健康フェスティバル」を開催し、参加者は健康を楽しみながら歩く参加者

「ア」が開かれ、骨密度や体脂肪の測定、医師による健康相談を受けた。町健康推進員の野菜クイズコーナーも設けられた。

開会式では中村進同町ウォーキング協会会長が開会宣言、川口克則町長、勝田省吾同大学長があいさつした。勝田学長は5キロのコースに参加した。



津幡署員が反射材PR

◇津幡署の署員と家族ら約25人が初めて参加、その日のTシャツと反射材たすきを身に付け、交通安全と防犯を呼び掛けた。

内灘町白帆台丁目

ピンクのTシャツには背中に「安心を光で届ける反射材」「みんなでつくる安心の街」と書かれている。5キロコースに参加、ゴールした松田健二署長は「健康のために歩く際、反射材たすきを忘れないで」と話した。

